

## 校長雑感

### ～1年の締めくくりに相応しい3学期に～

新年が明け、早いものでもうひと月がたとうとしています。学校も3学期が始まり、1年の締めくくりの時期を迎えました。始業式では凜とした表情や雰囲気、「新たな目標」を持ち頑張ろうとしている決意を感じ取ることができました。また、個々の目標やクラスの目標に向けて頑張っている生徒の様子を、担任の先生をはじめ多くの先生方からも耳にします。“継続は力なり”、今の頑張りが明日につながり、その積み重ねが目標達成につながります。ぜひ、次の学年に向けてステップアップする3学期にして欲しいと思います。特に、3年生にとっては入試シーズンを迎え、焦りや不安を抱くこともあると思いますが、共に過ごしてきた仲間と励まし合いながら、試練を乗り越えて欲しいと思います。そして、残りわずかとなった中学校生活の時間を、大切に過ごしてください。(体調管理にはくれぐれも気をつけて)

### ～「私の折々のことばコンテスト」より～

毎年1月に、「私の折々のことばコンテスト」(朝日新聞社が中学生と高校生を対象に、心に響いた言葉とその言葉にまつわるエピソードを募ったコンテスト)の結果が発表されます。今年の中学校部門の最優秀賞は京都府洛星中学校3年茨木隆之介さんの、『曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからないの。でも、きっといちばんよいものにちがいないと思うの。』でした。毎日毎日塾に通い、夜中まで勉強して臨んだ中学受験で不合格となり落ち込んで涙していたときに、母親から薦められた「赤毛のアン」(モンゴメリ著)にあった言葉。環境という自分の努力ではどうにもならない事に立ち向かい、自分を信じて人生を切り開く主人公の言葉がぱっと光を放ったそうです。曲がり角の先にあった今の中学は楽しく、これから何度も出会う曲がり角をワクワクしながら進んでいきたいと書かれています。この作品を読んで感じたことは、直接的な言葉ではないが、何かを感じ取ってほしいと本を手渡す母親と、それを受け止め自分の力に変えている筆者の関係性も素敵だと思いました。

高校部門の最優秀賞は大阪府立池田高校2年林咲智さんの、『さっちゃん、いつてきます。』です。幼い頃は自分の気持ちをうまく伝えられなかった自閉症の兄が、会話ができるようになり、私が通学する時に毎日窓から見送ってくれる言葉。本当は「いつてらっしゃい」だけど、兄なりに私を見守ってくれている気持ちがわかり愛着がわき、何気ない日常だけれど自然と顔がほころぶことが書かれています。

その他にも、『Are you okay?』は、ウクライナのキーウに移り生活していたが、ウクライナ侵攻により余儀なく帰国してしばらく後に、ウクライナに残っている友人からのメールでの言葉。現地は大変な状況であるのに、自分たちを心配してくれる優しさと私たちは大丈夫だから心配ないという勇敢さが込められた言葉が、深く心に響いたという作品もありました。

他の人にとっては何でもない言葉であっても、エピソードを読むとその人にとっては大切な言葉であることがわかります。また、身近な人が発した言葉やその時の表情などから、相手の気持ちを考え、想像力を働かせて受け取っていることが素敵だと感じました。

そして、言葉の力はすごいとあらためて感じる事ができました。たったひと言で人を元気づけることができます。これからさまざまなことが AI に取って代わられる時代が来ると言われますが、今、目の前にいるその人に合わせて言葉をかけてあげられるのは、やはり生身の人間にしかできないことだと思います。

## 面接練習 1月8日

緊張感の中、入試対策として3年生が本番と同じ形式で練習をしました。



## 英語検定 1月24日

英語のスキルアップのため、今回は5名の生徒が5, 4, 3級に挑戦しました。



## 授業の様子

